

ユニーグループ健康保険組合 現状と課題(簡略)

ユニーグループ健康保険組合

※2014(平成26)年7月31日に厚生労働省へ提出した第一次原案からの分析データと導き出された課題を中心に記載しました。

※8事業概略は、別資料の説明版を参照くださいますようお願いいたします。

1. ユニーグループ健康保険組合の特性

(1) ユニーグループ健康保険組合について

ユニーグループ健康保険組合は、ユニーグループの従業員とその家族が加入する健康保険組合で、加入者総数は42,223人(平成26年3月31日現在)である。ユニーグループは総合小売業、コンビニエンスストア、呉服や婦人服を取り扱う専門店の事業を中心に、クレジット・保険代理等の金融業、広告業、施設管理や警備、飲食事業を扱う企業もあり、業種、職種は多岐に渡っており、適用事業所数は20となっている。ほぼ日本全国に事務所や店舗があるため、加入者の居住地も中部、関東、北陸を中心に全国に渡る。

加入者のうち被保険者は28,721人、被扶養者は13,502人であり、扶養率が0.47と低いのは、被保険者の中心が40歳から65歳までの主婦のパートタイマーであるためである。よって、加入員全体を男女別にみると男性13,595人(うち被保険者は9,012人)、女性28,628人(うち被保険者19,709人)であり、平均標準報酬月額額は232,732円と年間総報酬額が非常に低く、保険料率も94‰(平成25年度)と高い設定となる健康保険組合となっている。

また、被保険者の平均年齢が年々0.5歳程度高くなっており、現在45.49歳である。これは、団塊の世代の年齢帯に加入員が多いためであり、現在453人である前期高齢者数がしばらく増加し、場合によっては、任意継続被保険者を中心に1,000人規模になることも予想されている。さらに、今後健康保険の適用拡大が平成28年10月から施行されると、加入企業の特性上、さらに標準報酬月額の低い従業員とその家族の増加が見込まれ、収入支出のバランスが悪化することが予想されるため、これまで以上に加入員の健康保持・増進を後押しし医療費の適正化につなげなければならない状況である。

(2) 保健事業に関する基本的な考え方

組織の最大の資源である人材に対し、「こころ(精神的アプローチ)」と「からだ(身体的アプローチ)」両面からの全人的な健康保持、健康増進を図ることを基本的な考え方としている。

第一次健保改革として、2008年から始まった特定健康診査及び特定保健指導を身体的アプローチとして位置付け、5年間の対応により厚生労働省の目標は達成(健診率82.3%指導率56.5%(平成24年度実績))しており、40歳以上の生活習慣病に対する意識づけの仕組みはできたと考えている。しかし、被扶養者の特定健康診査受診率は伸び悩んでおり、前期高齢者、40歳未満者への対応と合わせて第二次健保改革での身体的アプローチの継続課題として実施を考えている。

これから始まる第二次健保改革としては、被扶養者・前期高齢者・40歳未満者への身体的アプローチに加えて被保険者の「こころ」(精神的)のアプローチも実施する。この取組は、労働安全衛生法の改正施行を睨んだものであり、事業会社と連携して「こころ」の健康管理体制の構築と推進を通じ、事業会社の「生産性の向上」に寄与することがコラボヘルスの大きな目標として認識している。

尚、当健保の保健事業は、健康保険組合事業運営基準及び健康保険組合事業運営指針の定めに沿って毎年実施している「健康管理事業推進委員会」で保健事業の企画立案、事業の実施結果の分析と評価をおこない、財政上の課題も踏まえて次年度の事業計画を策定している。

これまでは、健康教育に関しては機関誌、ポスターへの掲載を通じて行い、保健師等による健康相談の実施をしている。また、健康診査に関するものとしては、定期健康診断の法定外部分への費用補助をはじめとして、がん検診、インフルエンザ予防接種、家庭用常備薬購入費用など各種費用補助を、さらに、体力健康づくりとしては、

健保連を通じた健康ウォーキングの推奨等を行ってきた。こうした事業を通じて、大命題である加入者の健康保持・増進と、増加する医療費・給付金等の適正化に寄与している。

今回のデータヘルス計画の策定をきっかけとして、外部専門業者様の協力によりレセプトと健康診断結果等の突合・分解・解析をおこない、事業主と協働して加入者にアプローチするコラボヘルスを通じて、効果・効率的な保健事業に取り組み、「こころ」と「からだ」の健康保持・増進と合わせて、医療費適正化に努めていく所存である。

現状分析

(1)使用データ

加入者の健康状態を把握するために下記のデータを使用し、現状分析を行った。

- ・レセプト 平成25年1月～平成25年12月(12か月分)
- ・健診データ 平成25年4月～平成25年12月(9か月分)

※本計画は、医科・調剤の電子レセプトを対象に作成している。

※平成27年度～平成29年度に保健事業を実施する際には、レセプトと健診データの整合性を図るため、データ3か月分を追加し、再度データ分析を行った上で実施するものとする。

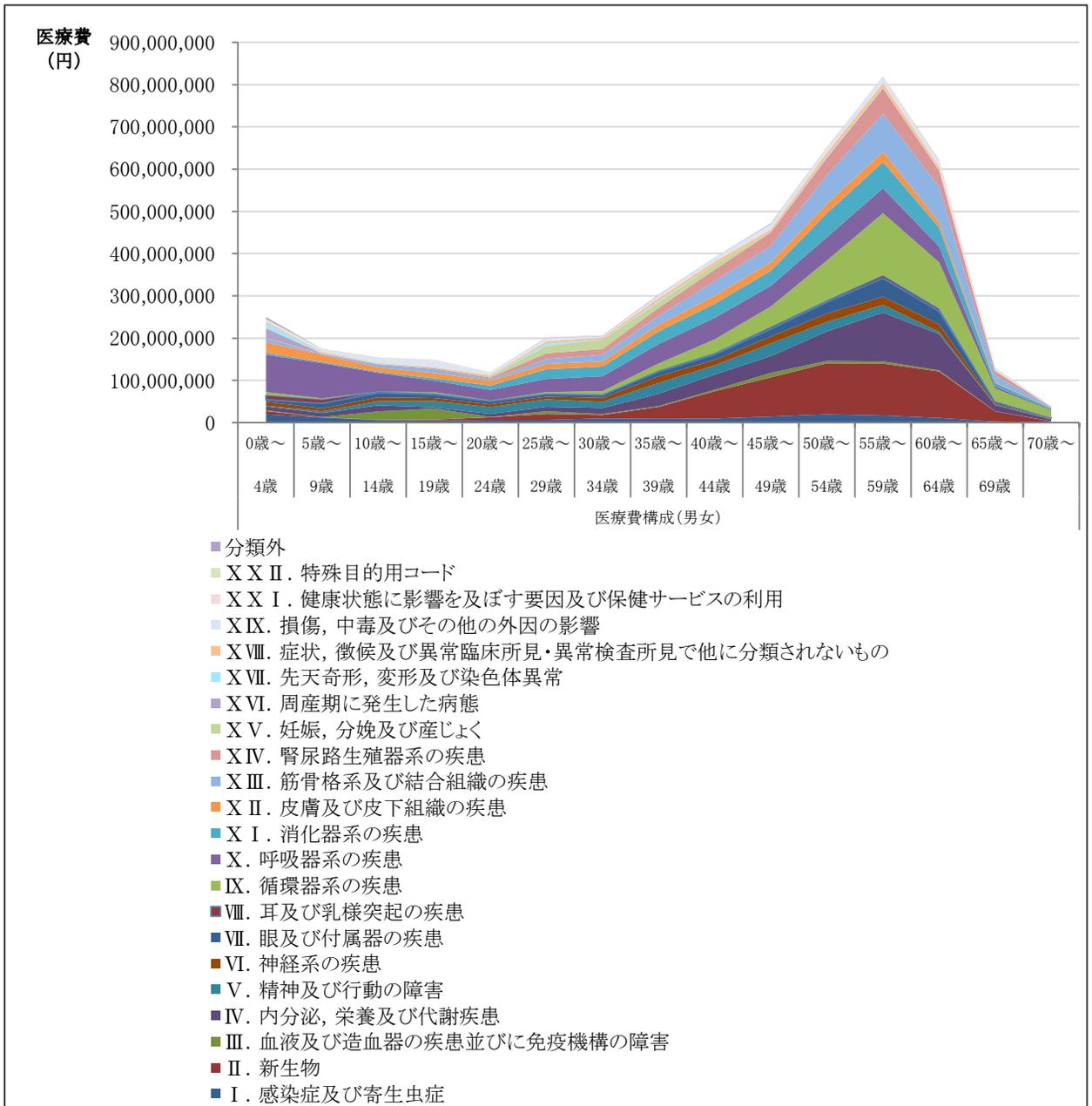
なお、歯科レセプトは電子化率が69.5%(平成26年5月末、社会保険診療報酬支払基金ホームページより)であるため、今回は分析の対象としていない。今後はさらに歯科の電子レセプトが普及するため、将来歯科レセプトも分析対象に加えることを想定している。現時点で把握している歯科医療費は年間約7億円である。

医療費等 分析の結果

■年齢階層別

年齢階層別の医療費を見ると、医療費が一番高い年齢は55歳～59歳であり、「循環器系の疾患」、「新生物」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が上位を占めている。55歳～59歳の「循環器系の疾患」の医療費は約1億5千万円で55歳～59歳の医療費合計の17.9%を占めている。55歳～59歳の「新生物」の医療費は約1億2千万円で55歳～59歳の医療費合計の15.0%を占めている。55歳～59歳の「内分泌、栄養及び代謝疾患」の医療費は約1億1千万円で55歳～59歳の医療費合計の14.1%を占めている。若年層については0歳～4歳が一番多く、「呼吸器系の疾患」が多くの割合を占めている。0歳～4歳の「呼吸器系の疾患」の医療費は約9千万円で0歳～4歳の医療費合計の35.4%を占めている。

年齢階層別医療費(全体)



データ化範囲(分析対象)…内科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成25年1月～平成25年12月診療分(12カ月分)。

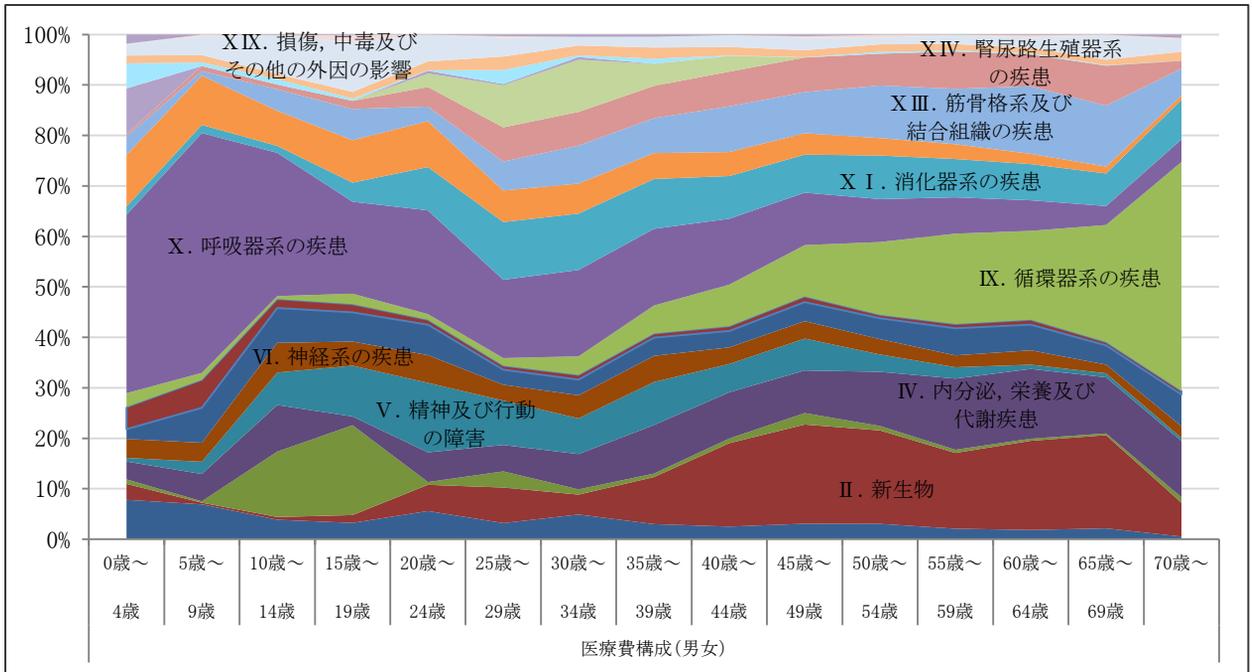
データホライゾン社 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

疾病別医療費構成を年齢階層別に示す。

・組合全体

年齢階層別医療費構成(全体)

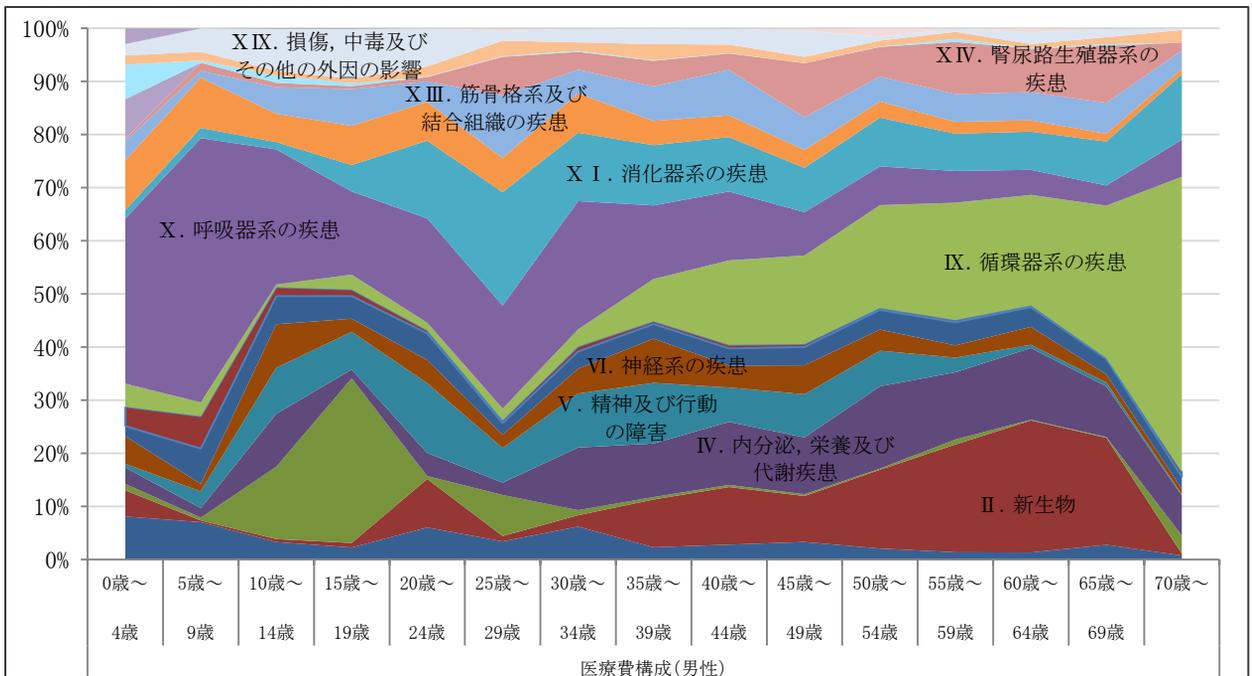


年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(全体)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	I. 感染症及び寄生虫症	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	VIII. 耳及び乳様突起の疾患
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	V. 精神及び行動の障害	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X I. 消化器系の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
25歳～29歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	II. 新生物
30歳～34歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	V. 精神及び行動の障害
35歳～39歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	V. 精神及び行動の障害
40歳～44歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
45歳～49歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
50歳～54歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患	II. 新生物	VII. 眼及び付属器の疾患

・組合全体の男性

年齢階層別医療費構成(男性)

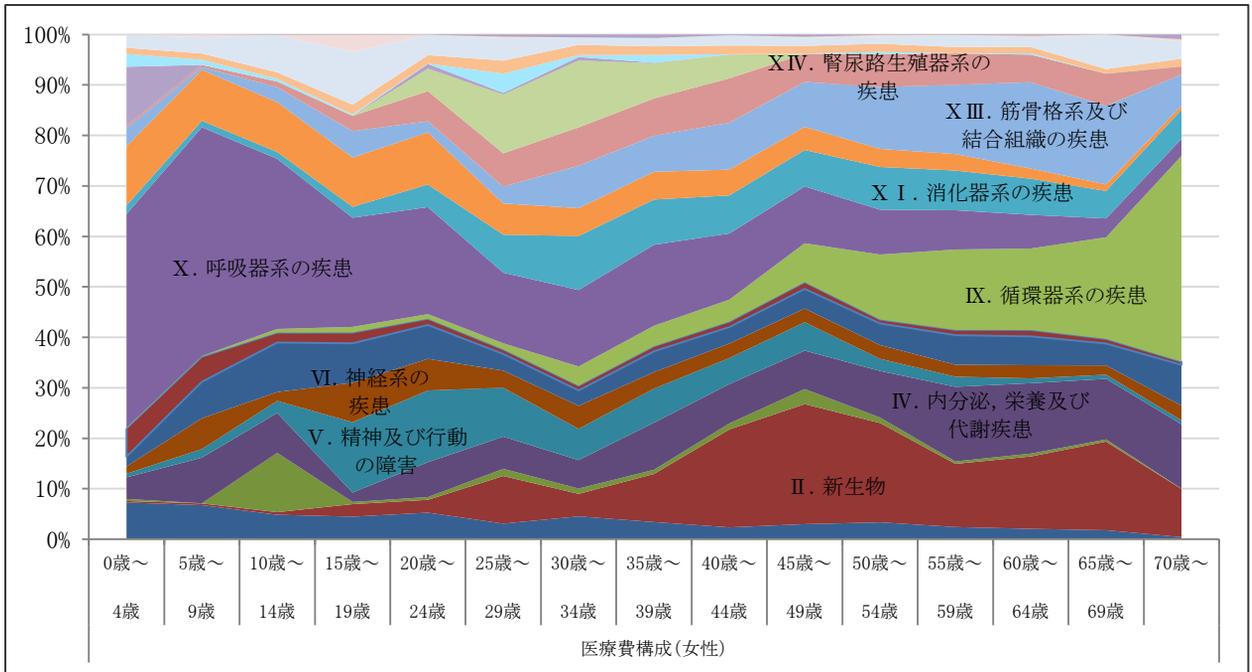


年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(男性)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	X VI. 周産期に発生した病態	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	VII. 眼及び付属器の疾患	VIII. 耳及び乳様突起の疾患
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動の障害	VI. 神経系の疾患
15歳～19歳	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X. 呼吸器系の疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	V. 精神及び行動の障害
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
30歳～34歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動の障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
35歳～39歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物
40歳～44歳	IX. 循環器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患
45歳～49歳	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患
50歳～54歳	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患

・組合全体の女性

年齢階層別医療費構成(女性)

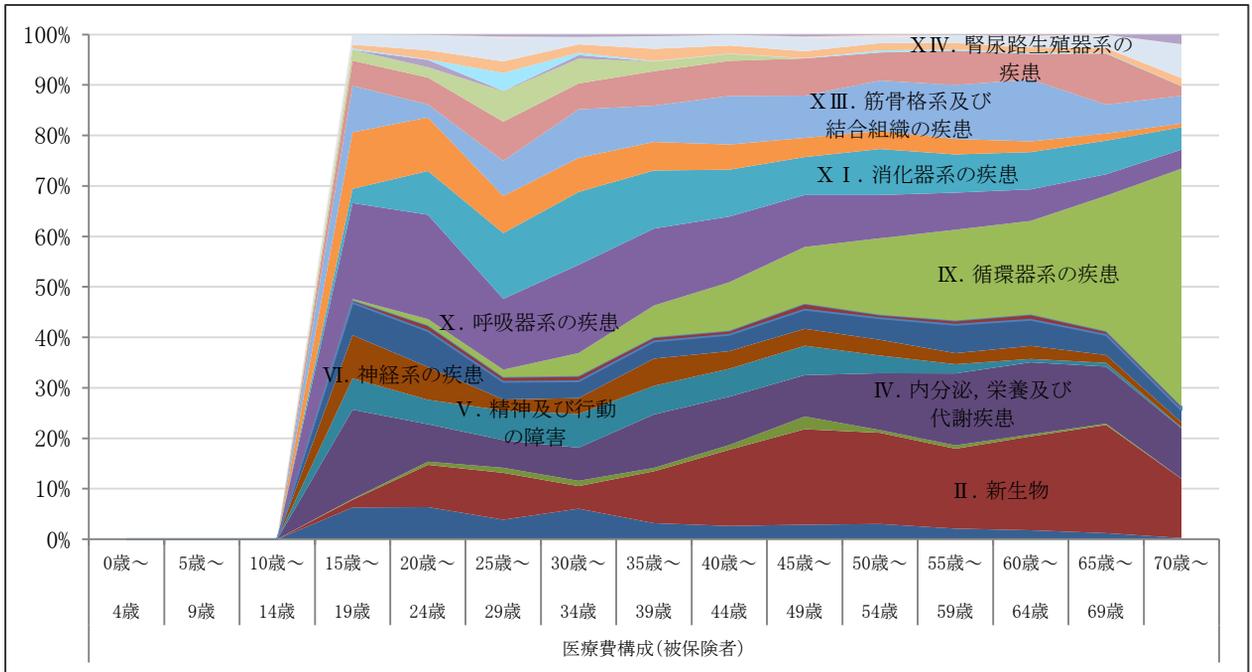


年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(女性)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	I. 感染症及び寄生虫症	VIII. 耳及び乳様突起の疾患
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	I. 感染症及び寄生虫症
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
25歳～29歳	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患
30歳～34歳	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	X I. 消化器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
35歳～39歳	X. 呼吸器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
40歳～44歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
45歳～49歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
50歳～54歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
70歳～	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	VII. 眼及び付属器の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患

・組合全体の被保険者

年齢階層別医療費構成(被保険者)

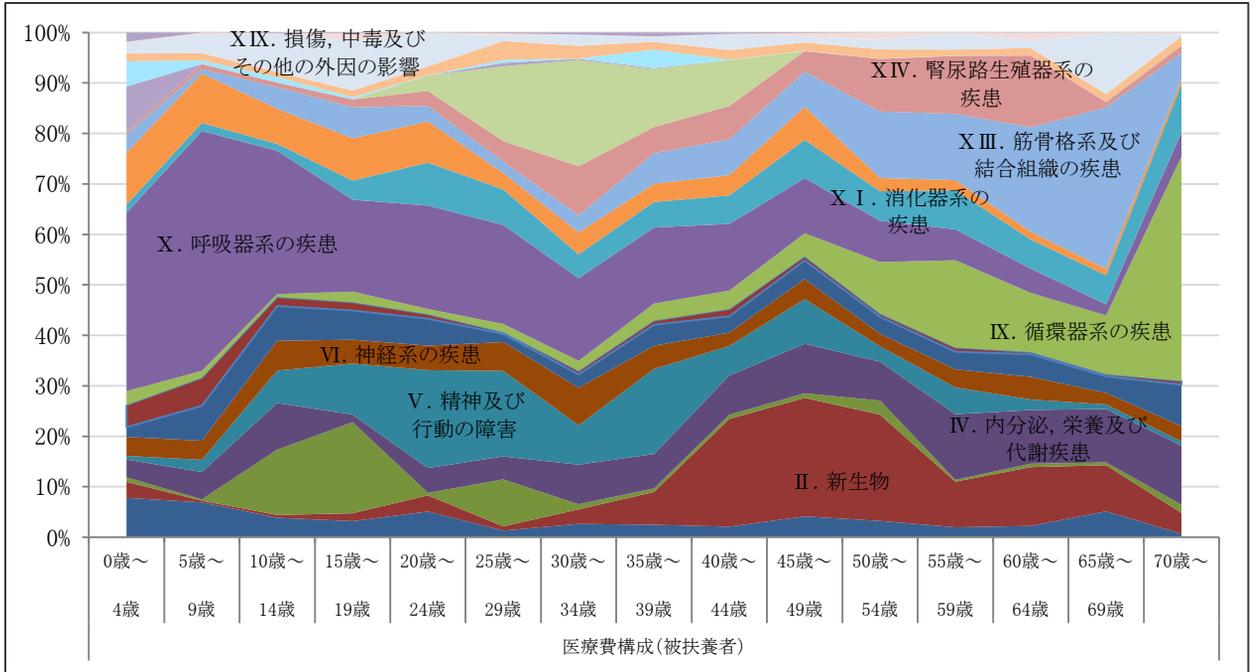


年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(被保険者)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳					
5歳～9歳					
10歳～14歳					
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	VI. 神経系の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X I. 消化器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
25歳～29歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	II. 新生物	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
30歳～34歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	V. 精神及び行動の障害
35歳～39歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
40歳～44歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
45歳～49歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
50歳～54歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患

・組合全体の被扶養者

年齢階層別医療費構成(被扶養者)



年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(被扶養者)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	I. 感染症及び寄生虫症	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	VIII. 耳及び乳様突起の疾患
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	V. 精神及び行動の障害	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X I. 消化器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
25歳～29歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X I. 消化器系の疾患
30歳～34歳	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動の障害
35歳～39歳	V. 精神及び行動の障害	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物
40歳～44歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
45歳～49歳	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動の障害	X I. 消化器系の疾患
50歳～54歳	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物
60歳～64歳	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
65歳～69歳	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物
70歳～	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患

< 参考データ >

■ 高額レセプト

高額レセプト(5万円以上)の発生原因となる疾病において、生活習慣病と関わりのある「腎不全」、「脳内出血」、「その他の心疾患」が含まれている。「腎不全」の患者一人当たりの医療費は約530万円で人数は16人である。「脳内出血」の患者一人当たりの医療費は約420万円で人数は7人である。「その他の心疾患」は患者一人当たりの医療費は約360万円で人数は20人である。

高額(5万円以上)レセプトの要因となる疾病

121分類名	主要傷病名	患者数(人)	医療費(円)			患者一人当たりの医療費(円)
			入院	入院外	合計	
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	血友病A,血友病,低ガンマグロブリン血症	7	6,441,660	42,320,500	48,762,160	6,966,023
腎不全	慢性腎不全,末期腎不全,腎不全	16	15,421,280	70,202,620	85,623,900	5,351,494
脳内出血	被殻出血,脳皮質下出血,脳幹部出血	7	26,122,180	3,113,920	29,236,100	4,176,586
その他の悪性新生物	卵巣癌,膵頭部癌,胸部食道癌	38	113,674,430	34,538,990	148,213,420	3,900,353
その他の心疾患	心房細動,完全房室ブロック,発作性上室頻拍	20	66,385,660	4,733,550	71,119,210	3,555,961
その他の内分泌,栄養及び代謝疾患	フブリー病,成長ホルモン分泌不全性低身長症,汎下垂機能低下症	10	14,771,280	17,995,470	32,766,750	3,276,675
虚血性心疾患	労作性狭心症,狭心症,不安定狭心症	12	32,305,480	6,044,790	38,350,270	3,195,856
気管,気管支及び肺の悪性新生物	上葉肺癌,下葉肺癌,原発性肺癌	11	19,728,410	15,050,590	34,779,000	3,161,727
結腸の悪性新生物	横行結腸癌,S状結腸癌,上行結腸癌	18	31,074,630	19,623,860	50,698,490	2,816,583
関節症	変形性股関節症,原発性股関節症,一側性形成不全性股関節症	15	29,311,660	4,671,030	33,982,690	2,265,513
その他の消化器系の疾患	潰瘍性大腸炎,クローン病,急性虫垂炎	24	28,943,740	25,346,580	54,290,320	2,262,097
その他の呼吸器系の疾患	自然気胸,慢性呼吸不全,間質性肺炎	12	20,053,000	6,933,840	26,986,840	2,248,903
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	川崎病,全身性エリテマトーデス,大腿骨頭壊死	16	26,614,530	5,918,580	32,533,110	2,033,319
乳房の悪性新生物	乳房上外側部乳癌,乳癌,乳房上内側部乳癌	38	37,692,830	31,656,550	69,349,380	1,824,984
骨折	橈骨遠位端骨折,腰椎破裂骨折,大腿骨頸部骨折	13	19,734,490	2,218,740	21,953,230	1,688,710
椎間板障害	腰椎椎間板ヘルニア,頸椎椎間板ヘルニア	15	14,169,330	2,820,420	16,989,750	1,132,650

データ化範囲(分析対象)… 医科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成25年1月～平成25年12月診療分(12カ月分)。

■ 入院、入院外(※表の記載は割愛)

入院、入院外の医療費の割合について、入院外の医療費が約2.7倍となっている。

・入院

入院の医療費において高額となっている医療費は、「新生物」「循環器系の疾患」である。「新生物」の入院の医療費は約3億2千万円で入院の医療費合計の25.7%を占めている。「循環器系の疾患」の入院の医療費は約1億8千万円で入院の医療費合計の13.9%を占めている。

・入院外

入院外の医療費において高額となっている医療費は、「呼吸器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝異常」である。「呼吸器系の疾患」の入院外の医療費は約5億8千万円で入院外の医療費合計の16.8%を占めている。「内分泌、栄養及び代謝異常」の入院外の医療費は約4億1千万円で入院外の医療費合計の12.1%を占めている。

<参考データ>

■中分類による分析

・医療費

医療費の高い順に「高血圧性疾患」、「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」、「その他の消化器系の疾患」となっている。「高血圧性疾患」の医療費は約2億4千万円、「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」の医療費は約2億3千万円、「その他の消化器系の疾患」の医療費は約2億円である。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比 (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0901	高血圧性疾患	244,058,900	5.2%	4,120
2	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	231,236,733	4.9%	6,584
3	1112	その他の消化器系の疾患	203,304,114	4.3%	5,665
4	0402	糖尿病	182,536,955	3.9%	3,588
5	0210	その他の悪性新生物	160,066,707	3.4%	1,292
6	1006	アレルギー性鼻炎	148,528,459	3.2%	11,165
7	0211	良性新生物及びその他の新生物	142,030,159	3.0%	3,754
8	1402	腎不全	117,655,941	2.5%	141
9	1010	喘息	115,182,601	2.5%	4,246
10	1202	皮膚炎及び湿疹	114,449,805	2.4%	8,679

データ化範囲(分析対象)…医科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成25年1月～平成25年12月診療分(12カ月分)。

データホライゾン社 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…中分類(121分類)の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

・患者数

患者数は「その他の急性上気道感染症」「アレルギー性鼻炎」「屈折および調整の障害」の順に多い。「その他の急性上気道感染症」の患者数は約1万1千人、「アレルギー性鼻炎」の患者数は約1万1千人、「屈折及び調整の障害」の患者数は約1万人である。

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	構成比 (患者数全体に対して占 める割合)	患者数 (人) ※
1	1003	その他の急性上気道感染症	93,320,313	5.2%	11,327
2	1006	アレルギー性鼻炎	148,528,459	5.2%	11,165
3	0703	屈折及び調節の障害	47,631,562	4.4%	9,522
4	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	74,720,543	4.3%	9,319
5	1202	皮膚炎及び湿疹	114,449,805	4.0%	8,679
6	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	70,196,647	3.3%	7,175
7	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	41,084,350	3.3%	7,049
8	1011	その他の呼吸器系の疾患	84,425,102	3.2%	6,852
9	0701	結膜炎	35,486,851	3.1%	6,675
10	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	231,236,733	3.0%	6,584

データ化範囲(分析対象)…医科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成25年1月～平成25年12月診療分(12カ月分)。

データホライゾン社 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類(121分類)における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

<参考データ>

■一人当たり医療費(年間)

一人当たり医療費では「腎不全」(透析移行前も含む)「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」「白血病」の順に高い。「腎不全」の一人当たり医療費は約83万円、「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」の一人当たり医療費は約48万円、「白血病」の一人当たり医療費は約46万円である。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円) ※
1	1402	腎不全	117,655,941	141	834,439
2	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	23,636,314	49	482,374
3	0209	白血病	24,631,666	54	456,142
4	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	22,007,664	68	323,642
5	0904	くも膜下出血	18,970,163	78	243,207
6	0206	乳房の悪性新生物	99,050,749	570	173,773
7	1701	心臓の先天奇形	13,218,383	81	163,190
8	0208	悪性リンパ腫	14,529,034	91	159,660
9	1502	妊娠高血圧症候群	3,498,214	24	145,759
10	0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	7,442,109	52	143,117

データ化範囲(分析対象)…医科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成25年1月～平成25年12月診療分(12カ月分)。
 ※患者一人当たりの医療費…中分類(121分類)における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない
 (画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

2.健康課題

下記の課題に対し、対策を講じることで医療費の削減を行うことが出来ると考えられる。

- ① 医療費(中分類)の上位は「高血圧性疾患」(医療費:約2億4千万円)、「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」(医療費:約2億3千万円)、「糖尿病」(医療費:約1億8千万円)などの生活習慣病関連の疾患が占めている。これらの生活習慣病は重症化することで「脳卒中」「心疾患」「腎不全」となり、治療に高額な医療費が必要となる疾患を引き起こす可能性がある。
- ② 患者数(中分類)の上位10疾病には、「呼吸器系の疾患」が5つ、「目及び付属器の疾患」が2つ含まれている。特に「呼吸器系の疾患」は0歳～29歳までの年齢階層別の医療費を見ても1位を占め、全年齢的に対策が必要である。
- ③ 患者一人当たりの医療費(中分類)が高額な上位10疾病は、「腎不全」「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」「くも膜下出血」「乳房の悪性新生物」の疾患が上位を占めている。これまで対策としておこなっている保健事業が含まれている。
- ④ 健診結果に異常値があるにもかかわらず異常値を放置している加入者が多い。健診異常値を放置すると、重症化し、その時点で治療を開始すると医療費が高額になる可能性がある。
- ⑤ 被扶養者の特定健診受診率が平成25年度で24.9%と低い。特定健診は加入者の健康状態を把握する上で、まず入り口となる部分であり、特定健診を受診しない場合、病気の早期発見ができないため、重症化するリスクが高くなる。
- ⑥ 喫煙率が高い。平成25年の国内の喫煙率は、男性32.2%女性10.5%(厚生労働省「最新たばこ情報」より)であるのに対し、当健保加入者の喫煙率は、男性39.5%女性18.0%である。COPDの潜在患者が平均よりも高い可能性がある。
- ⑦ ひと月に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、処方日数が一定以上である重複服薬者が複数認められている。すべて服用すると場合によっては危険な状態に陥る可能性があること、また、薬剤費適正化の観点からも対応が必要である。

3ヶ年計画（全体サマリー・課題マップ）

平成27年度～平成29年度の3ヶ年のデータヘルススケジュールは下記の原案とする。

1.全事業スケジュール

※各年度ごとに、予算立案・執行上、優先順位付して各年度ごとに実行・検証していくものとする。

データヘルス事業	平成 27 年度				平成 28 年度				平成 29 年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
データ化、改善計画	レセプト、健診データデータ化											
				改善計画				改善計画				改善計画
ジェネリック医薬品差額通知	ジェネリック通知書送付											
健診異常値放置受診勧奨	ハイリスク者に通知				異常値放置者全員に通知							
糖尿病性腎症重症化予防	重症な患者から順次指導											
特定健診受診勧奨	新たに特定健診の対象になる（新40歳）被扶養者及び41歳から45歳までの被扶養者のうち、前年度健診を受けていない被扶養者を対象に実施											
呼吸器系疾患対策	未就学児を対象にうがい・手洗いキャンペーンの実施 花粉症・アレルギー性鼻炎薬等のジェネリック医薬品切り替えを広報等で周知											
歯科医療費対策									歯磨きキャンペーンの実施			
COPD早期発見を目的とする対策	COPDの認知度向上 喫煙者への肺機能検査実施の受診勧奨											
重複服薬者受診行動適正化指導	重複服薬者に受診行動適正化指導											

事業主との連携の重要性

ユニーグループ健康保険組合では、国策である健康日本21に基づき 今般、政府の日本再興戦略の一環「健康・医療戦略」発表とともに当健康保険組合は国内健保組合同様な逼迫した状態＝(納付金負担・医療給付費増大)に対し「健康保険組合方式の維持・発展と保険者機能発揮のラストチャンス」として果敢にチャレンジするものとして、精力的にグループ内、関係各位に働きかけることとした。

まず、健康保険組合の今後の中期計画「健康保持・増進計画書」を作成し、事業主(業務系取締役、執行役)と議論の上で意見共有、その後には、労働組合幹部をはじめ、共済会(ユニーアイクラブ)幹部へ①社会保障制度の状況②医療保険の状況③当健康保険組合の状況を説明し理解いただくとともにデータヘルス計画に積極果敢に挑むことの意義と熱意を、深く理解してもらった。

平成25年11月に「健康管理事業推進委員会・理事会・組合会」にて「データヘルスプロジェクト」設置の方向承認を得て、上記中核メンバーにプロジェクトメンバー就任を要請し、プロジェクトの前半は「計画の策定」、後半は「計画の実際の推進体制及び周知・徹底」に取り組んでいる。

いずれにしても、健康保険組合単独ではグループの加入員(従業員とその家族)の「こころ」と「からだ」の健康保持・増進は成し得ることは到底できず、会社は元より、労組、共済会(ユニーアイクラブ)との連携なしでは推進できないものとしてグループ総力を挙げてこの「国策」に取り組むものであります。本計画で最も重要なことは「計画を創ること」ではなく、「実施・運用」を通じて、その結果加入者の健康保持・増進及び組織の生産性の向上、医療費の適正化という成果につなげることである。

個人情報の取扱い

ユニーグループ健康保険組合では、コンプライアンスの観点から個人情報の取り扱いについては、法令順守がまずは絶対要件。殊に、医療情報を扱う「公法人」としては慎重の上にも慎重を重ね、「個人情報保護法(平成15年法律第57号)」、「健康保険組合等における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン(平成16年12月27日厚生労働省)」などに準拠して、今般の「データヘルス計画(健康保持・増進計画)」に取り組むことを宣言している。

具体的取組みの一例では、重症化予防・受診勧奨など個人へのアプローチとして「個人情報保護法第23条第4項第3号」の共同利用の規定に沿って、健康保険組合から事業主(医療専門職に対し優先的に…)へは、レセプト情報における単なる受診の有無のみの最低限の情報提供に留めることとしている。

また、今般改正の「労働安全衛生法」における「ストレスチェック義務化」とその後の安全配慮体制についても「慎重に」事業主と方向性を探っていくものである。

尚、今後の展開手法では事業主と調整の上で医療専門職(産業医、保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士など)の組織上の位置づけ(契約形態など)の調整等を検討し、法令に準拠した上でのシームレスな情報の利活用もプロジェクト等に提案し、課題等も分析し解決手法を模索しつつより発展的な体制の整備と推進で、健康保険組合加入者のQOL(生活の質)の向上と事業主の生産性の向上に寄与するものと確信している。

※ 今般、ユニーグループ健康保険組合の個人情報の扱いはホームページ上でも修正掲載しております。

詳しくは、ホームページのサイトマップ「個人情報の取扱い」ページをご覧ください。